

平成30年度第1回流山市史編さん審議会会議

- 1 日時 平成30年7月12日（木）
午後2時00分から午後5時00分まで
- 2 場所 流山市立中央図書館会議室
- 3 出席者等
（審議会委員）
相原正義会長 山田友治副会長 岡村純好委員
小川浩委員 下津谷達男委員 清藤一順委員
原田亮委員 堀部昭夫委員 本間直子委員
村田一二委員
（事務局）
小栗図書・博物館長 玉ノ井博物館次長
北澤学芸係長 宮川主任学芸員 志田藤学芸員
上條学芸員
（傍聴者）
なし

4 議題

- （1）平成29年度市史編さん事業について
- （2）平成30年度市史編さん事業について
- （3）「流山市史研究第23号」について
- （4）「ふるさと流山のあゆみ」の増刷について
- （5）今後の市史編さん事業について
- （6）その他

（玉ノ井次長）

定刻となりましたので、平成30年度第1回流山市史編さん審議会を開催いたします。

本日の進行を務めます、図書・博物館 次長の玉ノ井です。どうぞ、よろしく願いいたします。

はじめに、配付資料の確認をお願いいたします。先日送付いたしました「会議資料」及び「市史研究23号の原稿」（6本）のほか、本日配付しました「会議次第」、「座席表」、

「委員名簿」、「市史編さんの方針について」です。不足資料はございませんか。

お配りしました委員名簿において、堀部委員の生年月日のところに昭和17年10月8日とございますが、3日の誤りでした。訂正させていただきます。大変申し訳ございませんでした。

なお、市史研究23号の原稿（3本）につきましては、後程、差し替えがございます。

審議会の議事は公開が義務づけられております。会議録作成のため録音させていただきますので、御了承願います。

また、発言の際は挙手の上、議長より指名されてからご発言をお願いいたします。

ここで、本来であれば、後田教育長から皆様にご挨拶申し上げますところですが、本日は生涯学習部長ともども公務が重なり、欠席とさせていただきますので、代わりに事務局長の小栗からより挨拶を申し上げます。

（小栗館長挨拶）

（宮川主任学芸員、志田藤学芸員、上條学芸員3名挨拶）

（小栗館長）

以上になります。宜しくお願いいたします。

（玉ノ井次長）

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、相原会長からご挨拶を頂きたいと存じます。よろしくをお願いいたします。

（相原会長挨拶）

（玉ノ井次長）

ありがとうございました。

「流山市史編さん審議会条例」第5条・第3項の規程により、会議の議長は会長に務めていただく事となっております。ここからは、相原会長に進行をお願いいたします。

(相原会長)

議題(1)平成29年度市史編さん事業について、事務局の方から宜しく願いいたします。

(北澤係長)

議題に入る前にご報告をさせていただきます。本日の会議につきましても、委員全員の出席をいただいておりますので、「流山市史編さん審議会条例」第6条第2項の規定により、会議が成立している事を申し添えます。

それから、大変時間が経過して申し訳ございませんが、前回の議事録を送付させていただいております。議題に入る前に、議事録の確認をさせていただきたいのですが、宜しく願いいたします。

(相原会長)

会議成立ということで、議事進行に入りたいと思います。前回の議事録について、修正等があればお出してください。

(本間委員)

13頁の相原会長がお話しなさっているところで、「他に何かございますか。ないようですので」の「ないよう」が漢字になっています。

(相原会長)

ありがとうございます。他に何か気がついたことがございましたらお願いいたします。

それでは、本日の議題に、平成29年度市史編さん事業について、事務局よりお願いいたします。

(北澤係長)

先に議事録に関しまして、修正の上、ホームページに公開させていただきますのでご了解いただきたいと思います。

それでは、議題1平成29年度市史編さん事業実施状況についてご報告させていただきます。事前資料(1)平成29年度市史編さん事業について。ア、古文書解読事業は、寄贈

寄託された古文書の解読を継続して進め、流山の歴史を明らかにするというので実施しております。現在収蔵点数27,552点のうち、平成29年度については、恩田家文書2,050点について解読を行いました。恩田家文書は、9,125点ございますが、このうちの7,732点を平成29年度で終了しております。

イ、市史啓発事業は、古文書講座を開講しております。古文書を解読しながら、あまり知られていない江戸時代について理解を深めるという目的で実施しております。講師は、國學院大學兼任講師の種村先生にお願いをしております。古文書講座は前期と後期に合わせて4回、計8回実施しております。前期は第1回「豊臣から徳川へ」、第2回「江戸時代初期の天皇と将軍」、第3回「田畑勝手作の禁とは」、第4回「殉死の禁をめぐって」という内容で、参加者数は延べ135名。後期は、第1回「日光社参に関する古文書を読む①」、第2回「日光社参に関する古文書を読む②」、第3回「安政の大地震に関する古文書を読む①」、第4回「安政の大地震に関する古文書を読む②」で、延べ142名の参加者がございました。前期は講師の種村先生に用意していただいた古文書史料の解読を行い、後期の4回は市内の古文書史料を利用して実施しております。

(相原会長)

29年度の市史編さん事業実施状況についての報告について、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

前回だったと思いますが、流山の史料なのかどうかということが出ていたと思いますがけれども、この8回の中で流山の史料はありますか。

(北澤係長)

3回目と4回目です。

(相原会長)

その他に何かありますか。

無いようですので、次に入ります。

(2)平成30年度市史編さん事業計画について、お願い

します。

(北澤係長)

平成 30 年度市史編さん事業について。昨年度と同様、アといたしまして古文書の解読作業を実施しております。平成 30 年度は、これまで長年継続をしていました恩田家文書の解読が上半期で終了する見込みとなっております。今日の議題(5) 今後の市史編さん事業についてというところにも関わってきますが、今後恩田家の古文書目録の作成の、準備を進めるという形で、解読作業を実施しながら目録作成の準備も開始いたしております。

イといたしまして市史啓発事業。今年度も古文書講座を開講する予定しております。全 8 回で、昨年と同様種村先生にお願いをする予定で、11 月から 3 月までの期間のうち、計 8 回で予定をいたしております。

ウといたしまして次の議題にもなっております、『流山市史研究』23 号の刊行、エといたしまして『ふるさと流山のあゆみ』の 2 版目の刊行、以上を予定しております。

(相原会長)

ご質問のある方はいらっしゃいますか。

次に関わることですので、(3) 流山市史研究第 23 号について、お願いします。

(北澤係長)

事前資料といたしまして、相原会長、岡村委員、本間委員、元館長の川根氏、それから事務局から私が資料紹介として松ヶ丘の街路灯についてと市史編さんの事業報告を送らせていただきました。

相原会長、岡村委員、本間委員から原稿の差し替えがございましたので、お配りいたします。

(相原会長)

私の原稿が俎上に乗りますので、山田副会長に議長を代わりたいと思います。

(山田副会長)

投稿原稿について、ご質問ございますか。

相原先生「旧水戸街道「引き直し」と向小金新田村の成立」について。

(相原会長)

水戸街道は流山市としてはたった 800 メートル、向小金新田だけ通っている。これと新しい水戸街道との開発の関連があるのではないか、ということでタイトルを旧水戸街道、今県道ですけれども、旧水戸街道の引き直し。いわば水戸藩ができてそして旧水戸街道ができてくると。その旧水戸街道を作るのに向小金新田が関わったのだろうということで書いたわけです。

流山市民一般的には南東部、向小金新田と前ヶ崎とか名都借とか、あまり市民にとって、接してない。調べた報告も少ない。私今住んでいますので、ということで書いてみました。

松戸の史談会というものがございまして、その史談会の山口博行さんという方が水戸道中の引き直し、付け替えの年代ということで松戸史談に載せているわけですね。この方とお会いしようと思いましたがこの方、投稿されて刊行されないうち、あるいは刊行されたかもわかりませんが、がんで亡くなられた。それで聞くことができなかつた。大変失礼だったのですけれども、山口さんのお考えと私の考えはちょっと違うということで、書いてみたということでございます。

細かいことについてはお伺いしたい。

(山田副会長)

ご質問ありますか。

資料新しいものは前と何が違うのですか。

(相原会長)

大きくは違わないのですが、補足したところが若干あります。

(北澤係長)

先生の原稿を確認させていただいた中で、13頁の注記の部分。3番、上段3行目、徳川光圀のところなのですが、9歳で元服をして13歳で従三位中納言と記載されているのですが、『国史大辞典』で確認しますと、中納言に任じられたのが元禄3年ということです。なので、12歳ではないと思われま

(相原会長)

確認します。

(北澤係長)

それと、もう1点。追加で後でいただいた写真。一石五輪塔の写真なのですが、私も実物を確認していないのですが、恐らく上と下は別物ではないか。形状からすると一石五輪で間違いないとは思いますが。

(相原会長)

前は別の石。

(北澤係長)

台の上に年号が入った基部があると。

(相原会長)

そうですね。どっちからとろうかと思って、誤解を受けるなと思って、一石じゃないんじゃないかと言われる可能性があったので。

前の台を片付けようと思ったけれどもそれは断ってなかったものですから、こうなってしまった。そのまま写真を撮るのはいいですよとご了解いただいたのですが。そのままというのが難しかったですね。

だからキャプションで一言断ろうかと。

(北澤係長)

上の2つ石材は元の一石五輪塔とは別と思われま

(相原会長)

元々じゃない？一石じゃない？

(北澤係長)

基部から三段目までは一石五輪です。上の部分のはぐれてしまったもので、上と下の形状のアンバランスさを考えると別物の可能性が高いと思います。

(相原会長)

別じゃない、一石だと思う。向小金に寛永年間一石五輪塔が2本ある。それも触ってみましたが間違いなく一石。

ただ元和年間につくったかどうか。彫り込みは元和9年になっていますけれど。後々に作ったのかもしれませんが。

(小川委員)

元和は皆無に等しいですからね。

(北澤係長)

元々の形状は一石五輪で間違いはない。それは問題ないと思いますが、一部が改変されているという認識を持ちました。

(相原会長)

もう1回さわってみます。

(北澤係長)

事務局の方でも1度確認いたします。

(村田委員)

上から3つ目、4つ目は文字があるだろうとわかるけれど、1番上と2つ目はこれあるんですか。

(相原会長)

ちょっとそれはわかりませんね。

(下津谷委員)

上の2つ、石が違うような感じもする。こういう置き方もあまり聞いたことがない。この写真で見ると別のよう気がする。

(相原会長)
別の石みたいな。

(山田副会長)
バランスが悪いね。

(小川委員)
上2つは後から乗せたんじゃないかという気がする。文字が上2つつながれば問題ないんでしょうけど。ちょっとアンバランス。

(相原会長)
バランスが悪いんですけれども、3本とも微妙に違う形。近くですと東漸寺さんの無縁仏のところも調べてみたんですけどちょっと違う。小金あたりの石工が刻んだのかなと思って。同じ形じゃない。こういうバランスが悪いのもある。

(山田副会長)
こいつはこれ梵字あるんですか。

(小川委員)
これを見ますと下の方ありますね。

(山田副会長)
1番上あるんじゃないですか、これ。

(相原会長)
文字は読めない。

(小川委員)
この時期は板碑から五輪塔へ変わる時期。それ以降この

地方では板碑は急速に消えてしまいますので。

(相原会長)

年号は一色さん辺りが読んでいるだろうと思います。

(小栗館長)

論文の趣旨に影響は？

(小川委員)

別段この五輪塔そのものを論じていませんので。キャプションでそれなりのことを付け加えれば。

(相原会長)

今日ご指摘を受けたことを収めて書いていきたいと思えます。

(小川委員)

年号は間違いないと思います。

(相原会長)

年号は間違いない。

(小川委員)

板碑から五輪塔への移行期の資料ですから。

(山田副会長)

その他に何かございますか。

(小川委員)

非常に面白い。

(相原委員)

山口さんはそれを否定しているわけですね。水戸街道をつくった年代はもっと後だと。そうだと向小金と結びつかない。向小金には光圀が綿貫に 20 両渡して松並木を作れと。向小金は 1 本もない。なぜ向小金に松を植えなかった

か。村ができて旅人が迷わないで済むと。

駒木新田と向小金新田、どちらが古いかあやふやな表現をしたのは、駒木新田のことはおさえきれない。かなり早いうちに新田開発したような書き方ですけれども。参考文献の中にあげています『地名を歩く』の場合ですと駒木新田の方が初出が古い。僕は同じころじゃないかと思っている。向こうは上野牧と高田台牧でありますけど、向小金新田は上野牧。ほぼ同時に幕府は新田開発を許可したのではないかと思いますけど。その辺はちょっと言い切れないところがあったので、ぼやっとした表現にしました。

(村田委員)

相原先生のおっしゃる新田開発とは、森林を切り開いて田畑をつくって人が住んで新田ができたことをいうのか。恐らく最初からそこへ行って人が住んで村ができたのではなくて、何年か経っていると思う。恐らく最初は入会地か請所みたいなもので、農民が許可をもらったか何かわからないけれど、入り込んで、そこに畑を作って段々大きくなって仕方なく認めたか、政策で認めたかわかりませんが。

いずれにしろ人が住んで村ができてなるんですけど、先生のおっしゃる村ができた年号というのは、畑や家ができて、人が移り住んだ時を以てできたというふうにお考えなのですか。

(相原会長)

向小金の場合、いつから村が始まったかはっきりわからない。人が住んだのが大体、墓を調査して、大体6～7軒が最初だろうと思っているのですが、それが寛永年間の初めと思っています。その頃はまだ入植はしたけれどそれで生活はまだできなかった。そこを開墾して蕎麦とか稗とかそういうものを、段々土地が肥えてきて他を植えることができる。最初は生活できなかったんじゃないか。

成り立ったのは正保年間。水戸街道がほぼ開通するのが正保年間といわれている。その頃じゃないかと思っている。例えば享保年間には方々開墾して周辺集落が開かれた。そ

れでいくとやっぱり 10 年位、8～10 年経って幕府が認めていくということになるのでは。

今谷新田、小金上町新田がいつ頃開かれたのだろうと調べていたら水戸の文献が出てきた。それだと享保に村ができたといわれているが、その前、正徳年間には人が住んでいたことがほぼわかる。そういうふうに 8～10 年位の間がかかると思うんですね。

大体向小金の中心の神社、香取神社から小金の東漸寺まで丁度 2 キロ。裕福な家から分家に出したところは労働力とか、多少食べるものの援助も受けられた。それと道普請をやりながら現金収入を受けたのではないか。その史料が出てこないものですからわかりませんが。そういうことで、向小金新田の初期の人たちの初期の入植は旧水戸街道と関連があるということを書いてみた。

(小川委員)

検地帳には出てこないのですか。税を納めているのが 1 つの成立条件では。

(相原会長)

検地が始まった時に村ができた。享保 15 年とか。検地があったのが、隣村ですと今谷新田とか小金上町新田とかが享保 15 年。

(小川委員)

享保 15 年ですね。それならそんなに古くない。

庄内牧の開墾、柳沢新田、そこに神社がありましてそこから文書が出てきて頼まれて解読したんですけれど、寛文延宝期に親村から出てきて開墾。30～40 年後検地帳にのる。

(下津谷委員)

新田と名がつくのは税を払ってからですね。その前は地元では言っているけども正式な名前としては出てこない。

(相原会長)

向小金の場合は向小金という地名は最初はない。小金の

脇のところには新田村と出てくる。向小金というふうにつくのはその後。当時新田村は少なかったわけですから、新田村という向小金を指したと。

(小川委員)

面積的にも小規模なのですね。水戸街道の開発に伴って行われた可能性もある。そうしないと柏の方まで同時期のものがないとおかしい。

(山田副会長)

他にご指摘ございますか。

それでは岡村委員「流山市の鋤」について審議したいと思います。

(下津谷委員)

小川さんの専門ではないですか。

実測がきちんとある。昔の民俗は実測がなくて写真とスケッチのみだった。面白いのではないですか。

(小川委員)

18頁のイグワ、これは古い形式。その後はすぐに金属になってしまう。ですからバリエーションがたくさんあります。もう少し細かくやっていると、田んぼには使わない。開墾地帯には必ず残る農具でございますので。消滅しかけています。

実測に基づいておりよく理解していただけると。

博物館に民具がたくさんありますので、館の方へお願いですけれども、いきなり全部とはいきませんけれども、毎年、系統づけて少しずつ整理していただくと、眠っている民具が目覚めていくのではないかと。この際にお考えいただければ。

(北澤係長)

博物館の資料を使っていただいて。

特に農具は色々あるのですが、常設展でなかなか展示できない中でこういった形で公開できるのはありがたいです。

(小川委員)

流通の流れまでわかるようになりますので。文字情報もたくさん出てきます。

(本間委員)

13 頁図 18 マンノウとあるのですが、私は今までサンボングワと耳にしていました。

(小川委員)

4 本あるのがマンノウです。

(本間委員)

4 本がマンノウですか。すると図 18 はサンボングワではないですか。

(小川委員)

明確に 3 本だから、4 本だからという基準はありません。大体大まかに言いますと 4 本がマンノウ。そのマンノウでも田を耕すものと畑と耕すもので大きさは全く違います。そういう分類でやっていくとまた違ったものが見えてくるかもしれません。

(山田副会長)

ちなみにどっちが畑でどっちが田なんですか。

(小川委員)

13 頁でいいますと 17 が田。16 が畑。
土壌に合わせて農具というのは考えられている。

(下津谷委員)

土壌や地形によって農具の形が変わってくる。

(小川委員)

柄が違う。これも調べてみると面白い。

(下津谷委員)

どういう場所で使ったかということをきちんとしないと正確ではない。

(清藤委員)

12頁と13頁、図の順番を変えた方が良いのでは。

(岡村委員)

たまたま収まったのでここに入れてあります。比率がありますので小さくしたくなかった。

(山田副会長)

小川先生にお聞きしたいのですが、農具の名称というのは全国的に調べたものはあるのですか。

(小川委員)

データ化してあります。検索が可能です。西日本を中心に、静岡県から西の方は、記録を沢山書いてくれていますので。そういう意味ではここは農業が遅れていました。

(本間委員)

事務局にお尋ねしたいのですが、図面がすごく多いのですがこれだけ載せて大丈夫なのですか。

(北澤係長)

基本的にはデータ化しているものは問題ありません。

清藤委員からの図版の位置は、縮尺を変えずに図を入れ替えられるのであれば、図の番号順の方が宜しいかと思えますので、調整させていただいても宜しいですか。

(岡村委員)

できるのなら変えていただいても結構です。

(北澤係長)

不可能であればそのままですけど。

(小川委員)
編集をお願いします。

(下津谷委員)
16頁のジョレン、穴が開いていないようですが。

(小川委員)
これもいくつもあります。

(下津谷委員)
これは流山で使っていたジョレンですか。

(岡村委員)
資料にあったものです。

(山田副会長)
他にございませんか。

(村田委員)
大変楽しく読ませていただきました。ありがとうございます。
ました。

1つ教えていただきたいのですが、3頁の表3で、真ん
中辺に刃の反りっという部分がありますよね。この反りっ
というのはどこをどういうふうに測ったのですか。

(岡村委員)
金属の刃を平面なところで押し付けて、そこから刃がど
れくらいあがっているか測りました。

(村田委員)
結構上がっていますね。

(山田副会長)
さて他にございますか。
では本間委員「大字上新宿二つの神社とその周辺（レポ
ート）」について。

(本間委員)

9頁7行目「古代人たちは…稲作は東南アジアから伝播されたというが」を削除したいと思います。照葉樹林文化まで頭に入ってきてしまって、それは無関係だったと後で気付きました。当初の初稿のように、簡単につないだ方が良くと後で反省いたしましたので、今回訂正させていただきたいと思います。

(小川委員)

5頁の終わりから2行目、「庚申講は、講中を組織し」とありますが、講中というのは1つの組織のメンバーということですので、「講を組織」にしないと言葉としておかしい。

(本間委員)

板碑なんかだと講中と書いてありますが。

(小川委員)

板碑は私たちが建てましたよという意味。

講は結ぶんです。そこに集まった人たちを講中。ですから、最初から講中というのはいないです。信仰の同志を講を結ぶ。信仰に集まった人たちを1人ずつ挙げられませんかから講中と言います。

(本間委員)

そうしますと「講を組織し」が宜しい。

(小川委員)

「講を組織し」とすべきじゃないかと。

(山田副会長)

それではこれは「講を組織し」と直してください。

(本間委員)

ありがとうございます。

(堀部委員)

6頁7行目祇園の八坂神社では、の「祇園際」の字が違う。

(本間委員)

「祭」ですね。

(堀部委員)

祇園八坂神社という言い方で京都の八坂神社とぱっとくつつけられるか。

(本間委員)

そしたら京都というふうには。

(堀部委員)

入れた方が良くと思いますけど。

(清藤委員)

7頁下段6行目で、カルシウムのおかげで見つかるのは人骨、動物の骨などで、土偶土器は腐らないですから関係ない。

(下津谷委員)

清藤さんと同じ意見なんですが、文章ちょっと足せばいいのですよ。人間や動物の骨はカルシウムのために残る。土器石器は関係ない。だから、動物質のものがカルシウムのために残るとちょっと足しておけば良いのです。これだと土器石器がカルシウムのために残ると読めちゃう。

(本間委員)

今後改めて訂正させていただきます。

(堀部委員)

馬蹄形の開口部と海の入江が結びつかない。

(小川委員)

ちょっと思い込みが強いのではないかなと思います。

(堀部委員)

なんで馬蹄形貝塚になったのかは専門家の中でも必ずしも唯一これが正解だというものはないです。馬蹄形貝塚は今、上から見ると馬蹄形になっているだけで、最初から馬蹄形になっていたわけじゃない。結果としてそうなっただけ。

結果として馬蹄形に見えるだけで、そこで縄文時代の人々が生活したときは、馬蹄形になっていたかはわからない。

(下津谷委員)

貝塚と一口に言うが、貝塚が形成されるのは5年10年じゃない。100年単位。そこに住んだ人は貝を捨てるが、馬蹄形に捨てていくわけじゃないんだけれども、そういう形になるように捨てている。

そこに住んだ人たちが捨て場所が決まっていて、結果的に馬蹄形になる。それが地形や何かによってそうになっているのか、その辺はまだはっきりとはわからない。一般的な解説書は馬蹄形貝塚で通ってしまうが。

(相原会長)

8頁上、BCが2つありますけれども、「BC5000年ごろから気候の温暖化」、5000年～4000年位の間が最高水位じゃないかと。そうすると「から」というのは誤解を招くというのが一つ。

4行目のところの「今から3500年」前、今を2000年とするとBC1500年の方がより近い。1000年じゃない。

(清藤委員)

BC5000年頃から気候の温暖化ではなく、BC5000年頃が温暖化のピークになります。

(本間委員)

ではここは、BC5000年～4000年が温暖化のピークで、という言い方が宜しいでしょうか。

(相原会長)

正確に言うと議論もあるんですけど、ぼやかして 5000 年～4000 年くらいがピークといった方が安全かなと。

(本間委員)

書き直しさせていただきます。

(小川委員)

あと細かいことですが、BC といきなりもっていくのではなくて「紀元前」と。次の 3 行目は良いと思います。

(本間委員)

1 行目の BC は「紀元前」で。

(小川委員)

レポートですのでわかりやすく。

(山田副会長)

他に宜しいですか。

(北澤係長)

上新宿貝塚の位置づけですが、縄文時代後期だけでなく晩期もあたりますので、後・晩期に表現を変えていただいた方が。

(清藤委員)

8 頁 2 行目あたりに「人は貝や魚を採って食べるようになった」とありますが、食べるようになったのはもう 1 万数千年前。

(堀部委員)

貝や魚はもっと昔から食べることは食べていた。

(清藤委員)

貝塚はもっと昔からありますから。

(本間委員)

そこは書かない方が良いでしょうか。

(清藤委員)

あまり書かなくて良いんじゃないですか。

(本間委員)

ここは削除させていただきます。

(堀部委員)

海退したから遠浅の海になるのではなくて、海は干潮と満潮がある。

(本間委員)

余計なところまで書いてしまったのでこのところは削除させていただきます。

(清藤委員)

さらに言うのですね、今から 3500 年前には「東京湾の入り江がこんな奥地まで来ていた」とあるんだけど、果たしてこの流山辺りには海がそのままきていたという論法なのではないでしょうか。

(北澤係長)

基本的には微妙で。入り江の奥というよりは汽水域。

貝塚の始まる初期はハマグリとかそういうものがあって、入り江の最奥部という表現はまだ良いかもしれませんが。

(本間委員)

入り江は書かない方が良いでしょうか。

(小栗館長)

時間を特定しなければ良いと思う。

(本間委員)

今から 3500 年という言葉を入れなければ正解に近い。

(北澤係長)

そうですね。入れないのであれば入り江の奥地ということは表現としては問題ないと思います。

(本間委員)

ではそれは入れないでおきます。

(相原会長)

4 頁下 10 行目、「東葛飾郡の郡会議員(現在の県会議員)」の括弧はいらんんじゃないか。県会議員と郡会議員は違うんじゃないか。

(本間委員)

括弧は削除した方が。

(相原会長)

郡会議員で良いんじゃないか。あるいは、この地域、東葛飾郡を選挙区にした県会議員。

(小川委員)

県会じゃないですからね。ですから今比較するものがないですから入れない方が良いでしょう。

(本間委員)

わかりました。

(小川委員)

タイトルで下に「(レポート)」と括弧書きがついていますが、本間さんご自身はいわゆる論文を書いているという意識ではないということでしょうか。

(本間委員)

論文調が書けないので、あまり。主観が多いので。レポートの方が良いのかなと思ったんですけど。別にとっちゃっ

ても構わないです。

(小川委員)

いや、そうなるとまた別の問題が出てくる。

折角レポート形式で出していただいて。地元の人が意外と知らない。どこの市でも他から流入したの方がこういう文化事業に意識が高い。

折角ですので、大変失礼なんですけど、レポートということを受け取りまして、今まで市史研究にこの類のものが掲載されてないんです。これから長い時代継続するために、こういうものも入手しないといけないと思いますので、どうでしょうか、論文とはまた別の扱いで、「村々を歩く」とか「地域を歩く」とか、タイトルをつければ1, 2, 3……と無限に続いていきますので、そういう形で今度の市史研究に掲載するのは如何かなというふうに思いますが。

(山田副会長)

如何ですか。

(下津谷委員)

今のご意見は結構ですが、私はレポートとあるからそう読んだんですよ。レポートなら良いなと思った、はっきり言うとな。論文だとちょっと具合が悪い。ですからね、レポートという形で読んで、良いなと、読みやすい。

そういう形にするならば、論文とは違う形のタイトル出しておいて、分野・ジャンルにするなら構いませんけど。レポートとして載せるなら私は構わないと思いますけどね。

あるいはレポートを取っちゃって、その周辺でそのままにしておいて、違うジャンルのをつけておけば。論文じゃありませんよという形にすればいいわけですよ、雑誌の中で。

(本間委員)

市史研究も今後のことを考えますと、市民に広く読んでもらうものであるべきですので、レポート形式でも受け付けて、審議して駄目なものは駄目、良いものは掲載する。風

穴を開けるといふか、新しいビジョンとして考えられるのではないでしようか。

(下津谷委員)

小川さんの言うように、地元の人は見落とすんです、こういう内容を。地元の人には当たり前。他所の目でご覧になってこういうのは面白い。

良い適当なジャンルの名前をつけてもらって、載せるのは良いんじゃないかと思えますけどね。

(相原会長)

小川先生の言われたように、江戸の村、地域を歩くとか、形をつくれれば、書いてみようとなる。それを期待して決めてほしいなど。

(小川委員)

編集後記でもそういったことを謳ってもらおうと、大いに投稿してもらえらる。

(下津谷委員)

流山を歩くとか。そんなのでやるのがいいかもしれない。

(山田副会長)

地域を歩くより流山を歩くの方が良い。

(小川委員)

地域というところの地域かわからない。

(山田副会長)

何か事務局で考えてもらえますか。

(小栗館長)

流山を歩くが一番良いかと。

(山田副会長)

本間委員どうですか。

(本間委員)

なにかきっかけになって嬉しいです。

(山田副会長)

ではそれでいきましょう。

次は川根さんの「利根運河・謎の写真を読む」。何かご意見ありますか。

(堀部委員)

これ川根さんの原稿は大分前に送られたものですよね。それとこれはどういうふうに、何か違っているのですか。

(北澤係長)

同じで、体裁を整えただけです。

(堀部委員)

反転した写真が載っていますよね。結果としてこれどちらになったんですかね。

(下津谷委員)

読んでてよくわからない。

2頁下段8行目「数例をあげる」とあるけれど何かその辺よくわからなかったんだけど良いのかな。

あとどこかに東武野田線って出ているけれど、これが実際に印刷されて出るときには、今既にアーバンパークラインになっているので、そこ直しておいた方が良いでしょう。

(相原会長)

あえて野田線と書く人もいますね。

(小川委員)

これで良いんじゃないの。

(下津谷委員)

結局結論ははっきりしない。

それからもう1つあるんですけど、6頁下段の図4と図5何とかありませんかね。小さくて見えない。

(北澤係長)

図4と5は拡大はできます。修正します。

アーバンパークラインについては川根さんに確認します。

(山田副会長)

川根さんについてはこのまま掲載。

他にご意見あるでしょうか。ないようでしたら次に進みたいと思います。

それでは、資料紹介と事業報告。

(北澤係長)

街路灯の写真につきましては、目次の後にカラーで入れる予定です。

(下津谷委員)

3頁下の写真ですけれども、これどこからか取ったんですか。ぼやけてるんですけれども。

(北澤係長)

松ヶ丘の自治会誌20周年記念誌から転載しました。

(本間委員)

これは松ヶ丘のロータリーですか。

(北澤係長)

そうです。

(相原会長)

2頁上5行目昭和31年11月から木造家屋が云々と書いてありますが、当時松ヶ丘じゃないんです。向小金新田。そのところ一言括弧でも良いから入れた方が良くないと。

(北澤係長)

字丹後ですね。

(相原会長)
そうですね。

(岡村委員)
4頁の街灯の図面にスケール入れないのですか。

(北澤係長)
付け足します。

(山田副会長)
3頁上の地図なんですが、これ何の地図ですか。

(北澤係長)
写真の載せてある場所です。

(山田副会長)
地図の真ん中、二重丸のところに街路灯があるということか。

(北澤係長)
そうです。

(山田副会長)
それをわかるようにしておかないと。

(北澤係長)
わかりました。

(岡村委員)
5頁の黒丸の番号がついていないものは何ですか。

(北澤係長)
番号のついていないものが現存のものです。

(小川委員)

それも注記しなくちゃいけない。

(相原会長)

このお寺さんは新しいですね。天台宗の。お墓がなくしてお葬式とか仏事専門の。

(小川委員)

そうですね。つくりもちがう。

(山田副会長)

寺域じゃないんじゃないか。

(北澤係長)

寺域の、駐車場の中に移設されている。元々は自治会館の傍の路上にあったものです。

(山田副会長)

これ見ると随分まばらなんですけど、1番と2番随分近接してあるということは元は沢山あったんですか。

(北澤係長)

沢山ありました。

(村田委員)

2頁「基部外周 1.2m を測り」の「測り」は「あり」で良いんじゃないですかね。

2頁の上の方に「20基以上設置した」と書いてありますよね。下の段の「歴史的建造物の評価」に「9基存在」というふうに書いているんですが、総数はいくつだとおさえているんですか。

(北澤係長)

把握しきれっていません。

(村田委員)

「松ヶ丘団地には、この他に同じ街路灯が 9 基存在」の「この」というのは。

(北澤係長)

元々松ヶ丘団地内にあったものなのですが、名都借の農家の畑に移設されたものが存在します。

(村田委員)

「この」は一号型街路灯のことを指している。

(北澤係長)

そうです。

(村田委員)

5 頁の一号型街路灯、2 頁の上には 20 基以上と書いてある。総数ははっきりしないということでしたが、把握できているのはどれくらいなんですか。

(北澤係長)

今残っているものは 9 です。実際には 1 個取り壊されて数は減っていますが。

20 基以上というのは松ヶ丘団地に建てられて街路灯として稼働していた数のことをいっています。

(村田委員)

松ヶ丘団地が昭和 30 年代にできて、20 基以上の街路灯がつくられたんですが、その団地自体の範囲は広がっているでしょう。だから、最初に団地ができた、街路灯ができた、その範囲は大体おさえることができるんでしょうね。そしたら 20 基以上この中にあったことになりますよね。そんなようなことを今の地図に落とせないんでしょうか。

(北澤係長)

調べてみます。

(小川委員)

耐震性の問題があるんですが、永久に残れるかというところはどうですか。

(村田委員)

地下の構造はどうなっているんですか。

(北澤係長)

地下はわかりません。

(山田副会長)

コンクリート製ですか。

(北澤係長)

コンクリート製です。一部鉄筋が見えているものもあります。どういうふうに残していくかは課題です。

(小栗館長)

このカテゴリーのものは恐らく初めてになるので、国登録有形文化財というものの解釈を少し進めるようなものになるんじゃないかと、国の調査官の方もチャレンジ的なところがありますということでした。

耐震性のお話を全く考えていなかったのを実感しておりまして、地下どのくらい埋まっているのかを確認しておきたいと思います。

(堀部委員)

市としてこの9本をこれからどうしようと、具体的にやるんですか。

(小栗館長)

その点については、申し訳ございません、全く考えておりませんでした。今後、文化財審議会等にも諮っていきたいと思います。

(堀部委員)

街路灯が建っているの土地は私有地なのか。

(北澤係長)

ほぼ公道です。

(堀部委員)

そうすると、何かの理由で取り壊されちゃう可能性もあるわけで。公道を管理している部局との連携をやらないと全部なくなっちゃうんじゃないかと思うんですね。

もし、道路工事をやって撤去されるならば博物館の方にご一報いただきたいとかにして、場合によっては撤去するときには地下構造がどうなっているか確認できると思うんです。

(北澤係長)

松ヶ丘の地元の皆さんの町歩きとかに使っていただいて、60年の中の歴史的なものとして、町のシンボルとして、指定しているしていないに関わらず、周知するのが残すことにつながるかと。

(堀部委員)

公道だと必要ないからと壊されることもあるかもしれない。

(北澤係長)

気を付けてやっていきたいと思います。

(相原会長)

写真に写っている説明板はお寺のものですか。

(北澤係長)

お寺のもので。登録有形になると銅板がきますので、これと一緒に新しい説明板を作って設置したい。

(山田副会長)

次に事業報告について進みます。

(相原会長)

その前に、数字の表記の仕方をこの辺で統一しておこうという案なんです。それぞれ表記の仕方が違ってどうするか。

(北澤係長)

今まで提出していただいた論文、レポートに関して、漢数字表記をしているもの、算用数字表記をしているもの。相原先生の方からは本文中は漢数字、参考文献は算用数字表記をしていただいて、わざと問題提起をしていただきました。相原先生の方から統一を図った方がいいのではないかということ。

(相原会長)

新聞なんかも算用数字を多く使ってきてますね。これ縦書きだから漢数字が良いかという問題なんですね。それと、資料とか参考文献の場合には統一した方が良いでしょう。西暦なら西暦。明治・大正・昭和・平成と、その度にどれくらい年の差があるのか、西暦を使った方が良くかなど。しかし、本文は和年号でいく。江戸時代は括弧で西暦を入れる。その場合も、例えば元禄3年括弧で西暦を入れるか、元禄3括弧西暦を入れて年で閉めるか、そういうことがあるんですね。これ区々なんですよ。どこかで決めるしかないですね。

(小川委員)

事務局で何かそういう基準持っていませんでしたっけ。

(下津谷委員)

市史編さんでやるときは最初にそういうのは決めてしまう。

(堀部委員)

執筆要綱なかったか。

(下津谷委員)

市史編さんで前に出したんじゃないかな。

(北澤係長)

事務局で確認して、それに合わせて統一するということにしたいと思います。

(相原会長)

もう印刷に入らないと。

(小川委員)

これだけ間違いがあるということで、次回から改めるという方向で良いんじゃないか。

(相原会長)

決めていただければそれぞれの人に直してもらおう。

(小川委員)

執筆要綱が出てこなければ今回はバラバラで。

(相原会長)

バラバラでも仕方ない。

(小川委員)

その可能性があるということを了承していただいて。

(山田副会長)

次、市史編さん事業報告についてお願いします。

(北澤係長)

前回の会議で、平成7年度以降の市史編さん事業に関して、それ以前に関しては市史研究の中で報告していたのですが、それ以後が掲載されていないということで、今回7年度から昨年度分までまとめさせていただきました。ただ、古いものは基本的には博物館年報に記載されているものです。詳細について載っていないものもありますので、ただやったことを列記するような内容になってしまっています。このままで掲載して良いかどうかを1つ問題点として挙げ

させていただきます。

(下津谷委員)

委員の名前が羅列していますよね。これ1段組みにしていますけど、2段組みにしてしまっただけ。そうするとページ数減るでしょう。

(村田委員)

平成118度、119度になっている。

(小栗館長)

小疇先生の「あぜ」が違う。

(北澤係長)

過去の審議会の日程は把握していますが、審議内容が不明なものが多くあります。記録が残っている部分を記載するのであればそこは追加をしていきたい。

(小川委員)

館報を見てもないですか。

(北澤係長)

ありません。

(本間委員)

これは『市史研究』23号に載せるという形なのですね。

(山田副会長)

23号に載せる。

(本間委員)

そうしましたら、下津谷先生が仰ったように小さな形で良いのではないのでしょうか。

(北澤係長)

圧縮できるところは圧縮します。

(小川委員)

圧縮するのであれば、当初は刊行物とか事業だけしか書いていない。委員の名前は書いていない。平成13年度から委員の名前が出てるんですね。委員の名前はカットしたら随分短くなります。事業報告であれば。実際に委員が事業がやっているとも限りませんでね。圧縮するなら。

(本間委員)

そう思います。

(山田副会長)

他に宜しいですか。

議題(3)流山市史研究23号についての議事が終わりましたので、議長を相原会長に戻します。

(相原会長)

次の議題に移ります。

議題(4)「ふるさと流山のあゆみについて」の増刷について、事務局より説明を願います。

(北澤係長)

前回の会議の際に残部がなくなってきたということと、内容について再検討するには時間がかかるということをご報告させていただきました。今回は誤字脱字、変換ミスについてのみ修正して再版するということをご了解をいただいています。現在、執筆者の方々に修正箇所を確認をさせていただいて、7月いっぱいを目途に確認作業を行っています。確認作業終わり次第、200部の増刷をいたします。

6月末現在残部が10部まで減っていますので、恐らく上半期中にはなくなるかと。7月の確認以降、増刷の作業を進めさせていただきます。

(相原会長)

ご質問があればお願いします。

(小川委員)

市民の方から聞いたんですけど、寺社一覧がわからない。それから文化財の一覧がない。寺社一覧、文化財一覧くらいは、今回は無理でも次回以降は是非検討していただけないかなと。

(小栗館長)

『チェック！流山のむかし』にはリストがあったと思いますので、その役割を果たすのはそちらなのかなと。

(小川委員)

皆何冊も買うわけではない。より皆さんに利用していただくには良いのかと。

(相原会長)

それでは宜しいですね。議題(5)今後の市史編さんについて。

(北澤係長)

前々から今後の市史編さん事業に関してということで色々検討していた中で、前回事務局から方針を出してほしいというご意見がありましたので、現実的に今事務局として何を最優先してやっていくべきか、また実現可能性があるものは何かということで、検討して、今後の方針として提案させていただくものです。

まず、1番としてあげさせていただいたのは、恩田家文書目録の作成になります。29、30年度の事業で報告させていただきましたが、恩田家文書につきましては30年度上半期で解読が終了する見込みです。この解読が終了するにあたって、目録を今後作成していくことを1番としてあげさせていただいています。約9,125点ありますが、作業を始めた中で枝番が出る関係上、実際には1万点を超える数になるかと思えます。その確認作業を行いながら、今のところの計画ですが、2年に1冊の刊行で、3分冊にわけて刊行をする目標です。今年度は下準備をして、実際には31年度から本格的に入り、32年度に第1分冊、第2分冊が34年

度、第3分冊が36年度というふうに予定しています。

次に、2番目といたしまして、諸家文書目録の作成といたしまして、前回にもお話しをいたしました。昭和61年以降、流山市史の中で文書目録が作成されていない状況です。この間、寄託・受贈したものに関しては市史研究等でも追っていないということを考えますと公開されていないということですので、過去に刊行されたものとあわせて、文書目録を作成していきたいというふうに考えています。順番といたしましては恩田家の方を優先して、その後この諸家文書の目録を進めていきたいと考えています。

それから、3番目として、これは1, 2と並行してやるような作業になるかと思いますが、『ふるさと流山のあゆみ』の改訂版を挙げさせていただきました。今年度200部の増刷を行いますが、過去の審議会でももっとわかりやすい内容にすべきだという意見が多く出されています。今回文言の修正を執筆者に依頼したところですが、実は執筆者の方からももう少し手を入れて書き直したいという意見も聞こえています。小川委員からも寺社一覧がないとありましたように色々な意見がありますので、今後数年後の改定を踏まえて、内容について審議会の中で議論していただければと思います。

最後見送りというふうに書いてありますが、自然編、考古編ということで挙げられていたのですが、現状の事務局の状況等を考えると、単独での自然編、考古編というのは難しいのではないかとということで、先行して3つのものを優先として、この2つに関しては見送りをすることで提案をさせていただきます。

2枚目につきましてはこれを踏まえた年次計画で、2018年から今後10年間の計画になります。元号が変わってしまうので、西暦表記にさせていただきます。目録の刊行と市史研究の刊行が同年になっていきますが、これはたすきがけにして、確実に市史の活動の中で、毎年何らかのものを刊行していくことになるかというのは、今後の審議会の中で検討していただければと思います。

(相原会長)

何かご質問がありましたら。

それではこういう年次計画に沿って、事務局の方で宜しくお願い致します。

(小栗館長)

事務局として提案がなされましたが、この年次計画は全体の 27,000 点の収蔵の文書について最終的にどうするのが明確になっていません。恩田家文書 9,000 点なので残り 18,000 点についてどうするのかというのが明確になっていません。

それから、この計画通りだと約 20 年目録の完成にかかると思っています。その間、文書の活字化がどうなっていくのかが全く示されておりませんので、計画と申しましても未完成な計画だと考えておりますので、もう少し練る必要があるかと。

また、これまで審議会の皆様から自然編、考古編について沢山ご意見頂戴しているものを見送りという形にして良いのかというのが気になっているところなんですけれども。

(小川委員)

この資料集を作るにあたって 1 番問題なのは、吉野家文書。どこまで本当に出せるのかどうか。これをクリアしないと流山の近世の生活に関わる大きな問題、何かしないと宝の持ち腐れで終わってしまう。吉野家文書が出ることによって下総台地が大きく変わります。特に農民の動きとか。色々問題があるとは聞いていますけど今は乗り越えることができるのではないかなと思います。是非検討してください。

(堀部委員)

吉野家文書を公表することによって、現在直接的に問題が発生するという事は考えられるのですか。

(小川委員)

一部考えられます。ただ私も全部目を通していませんので。

前の市史編さんもあわせて、前を出すときに館の方で修正しちゃったんですね。適当に切ってしまうと、全体像がわからない。

(堀部委員)

文書っていうのはよく屋号がでてきますよね。

(小川委員)

身分の問題もある。

(相原会長)

今回の年次計画には出てきていませんが、どの辺に位置付けるのか。

(北澤係長)

吉野家全体の持っている史料の中の、一部しか公開されていません。

(小川委員)

日記の部分が少し公開されている。

(堀部委員)

どのくらいのボリュームがあるんですか。

(小川委員)

私もちょっとわかりません。

(相原会長)

恩田家と比べてどっちが分量として多いんですか。

(北澤係長)

文書は短いものも1点と扱いをするので、総量的には恩田家の方が多いですけども、書かれている文書の中身は恐らく吉野家です。

(山田副会長)

一部しか公開しないというのは誰の判断ですか。

(北澤係長)

恐らく当時の市史編さん。当時の方針として、出せるものだけ虫食い的に出せばいいと感覚で、一部分だけ刊行したと伺っています。

(小川委員)

その通りだと思います。

中世～近世にかけての史料になりますので、この地方にない史料ですから。

(北澤係長)

吉野家の日記は通常のまち中の喧嘩だとか日常的な当時の生活文化を知るうえで非常に貴重だと思います。

(小栗館長)

恩田家文書については上半期に解読が終了する見込みであること、目録も既に作成に入っていることから、今年度の事業に組み込むことについては進めさせていただきますが、この計画については色々な側面がありますしご指摘もありましたので、この計画についてももう少し先のことまで考慮した形で、またご意見頂戴させていただきたいと思いますが如何でしょうか。

(相原会長)

はい。

時間が無くなりましたので、これで打ち切りまして、事務局の方から何かありましたら。

(小栗館長)

審議委員の皆様には、9月30日で今期の任期が満了します。公募委員3名の方は、今回でご退任となります。ありがとうございました。

広報ながれやま(8月1日号)には、次期の公募委員の募集記事が掲載されます。公募委員以外の皆様には、引き続

き審議委員を継続していただきますよう、お願いいたします。継続の確認につきましては後日、ご案内いたします。

(相原会長)

他に何かありませんか。

無いようですので、事務局にお返しします。

(玉ノ井次長)

皆様には、長時間に亘りご審議いただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、平成30年度第1回流山市史編さん審議会を閉会します。お疲れ様でした。